

【応募用紙】

提出いただいた応募書類（定款等、役員名簿、収支書類を除く）は、活動内容紹介のため、ホームページ上に公開します。

1 応募者概要

事業所	名称	(ふりがな：かぶしきかいしゃじえーぶいしーけんうっど) 株式会社 JVCケンウッド		
	代表者役職・氏名	江口 祥一郎	従業員数	17,623人
	所在地	〒 221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町三丁目12番地		
	ホームページアドレス	https://www.jvckenwood.com/jp/corporate/outline.html		
	事業開始年月	2008年10月1日	環境への取組を開始した年月	2008年10月1日
	事業内容	オートモーティブ分野、パブリックサービス分野、メディアサービス分野の事業等を営むこと、ならびにこれに相当する事業を営む会社の株式または持分を保有することによる当該会社の事業活動の管理		
	環境への取組について過去に受けた表彰等	(例) 横浜□□賞 (平成○年度) 横浜市の3R活動優良事務所「10年連続」(令和2年)*本社・横浜事業所、白山事業所 横浜市食の3Rきら星活動賞(令和元年)*本社・横浜事業所		
本社	名称	株式会社 JVCケンウッド	所在地	神奈川県横浜市神奈川区守屋町三丁目12番地
	総従業員数	17,623人	資本金	13,645,825,000円

2 環境に対する企業理念の設定、管理体制

(1) 基本理念・自己宣言等

環境ビジョン

「私たちは、環境負荷低減を常に意識した行動に取り組むエコ推進企業として社会に貢献して行きます。」

(2) 環境マネジメントシステム関連

	取組等の名称	詳細内容
ア 認証等	ISO14001	環境マネジメント体制の構築にあたり、ISO14001 認証取得を推進しています。国内においては全ての事業所と 10 関係会社で認証を取得。
イ 組織体制	(株)JVC ケンウッド&国内グループ EMS 推進体制	ISO14001 推進体制として、環境保全統括者より委嘱されたサイト、またはブロックの環境統括者、環境管理責任者、内部環境監査主任、ブロック長及び ISO14000 推進事務局、ISO 推進委員を設置している。
ウ チェック機構	(第三者審査機関) 株式会社日本環境認証機構	第三者認証期間による定期的な審査及び社内での内部監査を実施している。
エ その他の取組	事業活動を通じた環境への配慮、負荷削減への取り組み	グリーン調達の推進、従業員に対する環境教育「環境方針、自分の業務に関する環境側面、環境マネジメントシステムの有効性に対する自らの貢献、遵守義務の適合性 他」などを年一回以上 OJT、自己学習研修により実施。

(3) 取組結果等の公表・広報

当社 Web および社外ニュースリリースにて開示

3 環境に配慮した製品や技術開発、サービス等の提供・導入

製品・技術・サービスなどの名称	詳細内容
オートモーティブ分野、パブリックサービス分野、メディアサービス分野の製品に対して環境配慮を導入	<p>2019年5月から販売を開始した米州・欧州向けヘッドホン“Gumy Wireless HA-FX9BT”は包装材を従来のブリスターパッケージ（プラスチック製）から紙箱に変更。</p> <p>2019年度は、紙パッケージへの変更による本製品のプラスチック削減量目標を2.6tとしていたが、出荷台数の増加などにより、5.1tのプラスチック削減に貢献。</p> <p>近年プラスチック廃棄物の規制が強化されている欧州や、使い捨てプラスチックの禁止を打ち出したカナダにおいて、包装材を紙箱に変更することでプラスチック使用量を削減し、環境負荷の低減に取り組んでいる。</p>

4 事業活動において環境に配慮している取組、社会貢献活動

※取組や活動を開始した年度も記載してください。

	取組・活動等の名称	詳細内容
(1) 省エネ・CO2排出量削減の取組	気候変動への対応	<p>2008年事業開始より「エコ推進計画 2020」に基づいて策定された各種省エネルギーの取り組みを進めており、環境省主催の「インターナショナルカーボンプライシング活用支援事業」、一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）会員として経団連の低炭素社会実行計画、気候変動イニシアティブ（Japan Climate Initiative：JCI）などに参加し、気候変動に関わる情報交換や政策提言の支援を行っている。</p> <p>また、社内については、事業所における電力の使用量監視、高効率の生産・空調機器への更新、LED照明等の設備導入を進めており、従業員への環境教育にも力を入れている。（※添付資料参照）</p>
(2) 廃棄物削減の取組	廃棄物の削減	<p>2008年事業開始より事業活動を通じて発生する廃棄物をこまめに分別・分解し、社内での再利用や有価物化等に積極的に取り組んでいる。その結果、国内においては再資源化率 99.7%を達成しており、廃棄物総量も国内外で減少傾向にある。今後もグローバルを含めたゼロエミッションに向けて取り組み、廃棄物総量の削減および再資源化を推進する。（※添付資料参照）</p>
(3) 生物多様性保全等の取組	生物多様性の保全	<p>2008年事業開始から、環境基本方針に基づき策定された「エコ推進計画 2020」のもと、事業活動が与える生物多様性への影響を最小限に留め、保全に取り組むことの重要性を認識し、行政や専門家、地域の方たちと連携しながら、国内外の事業所の近隣地域における保全活動に取り組んでいる。</p> <p>本社・横浜事業所では、トンボ池（ビオトープ）による生態系の創出に取り組んでいる。（※添付資料参照）</p>
(4) 社会貢献活動	寄付・社会貢献活動	<p>2008年事業開始より当社の製品・サービスや知見を生かし、企業市民として若い世代やコミュニティに貢献する活動をグローバルで展開しており、従業員の社会貢献活動への参加を奨励している。また、コミュニティ投資の一環として、学生を対象とし多様な発想を生み出すことをねらいとするグローバルインターンシップの実施や、横浜市環境教育出前講座（生物多様性でYES!）「オノマトペ（擬音語）で森の音を表現しよう」～多様な生き物がかわりあって生きている森の音を聴き、オノマトペ</p>

		<p>で森を描こう～に登録し子供たちの環境教育も行っている。そして、事故防止を目的として北海道の除雪車にドライブレコーダーを導入することなどにも取り組んでいる。これらの活動を通じてさまざまな価値・発想を受け入れた多様な働き方の実現、当社製品を活用したコミュニティへの貢献等を目指している。</p> <p>(※添付資料参照)</p>
--	--	---

5 成果を上げている取組や先駆的・模範的な取組・事業

取組や事業の名称	詳細内容
産業廃棄物削減への取組み	<p>JVC ケンウッド本社・横浜事業所および白山事業所は、10年連続で横浜市の3R活動優良事務所に認定。</p> <p>本社・横浜事業所では製品類を細かく分解して分別することによる有価物化や柔らかいプラスチックの圧縮梱包による運搬回数の削減等に取り組んでいる。</p> <p>フロア集積場については、各建物のフロア毎に集積場を設置し合計17カ所の集積場を1日一回、回収。並びに各フロア収集場に「50音分別表」を集積場に設置。</p> <p>本社ビル1Fエレベーター前に、サイネージを設置して従業員に、分別情報をリアルタイム、かつペーパーレスで発信を行い従業員への啓蒙活動を展開。</p> <p>白山事業所では、16種類の回収箱を設置することによる分別排出の徹底等を実施。</p>
食品廃棄物削減への取組み	<p>本社・横浜事業所では、2019年度の横浜市「食の3Rきら星活動賞」を受賞している。具体的な取組みとしては、従来コーヒーかすが年間1t以上、食堂からの食品残さが10t以上廃棄物として発生していたが、【コーヒーかすを100%堆肥化へ】、【食品残さを93.5%豚の餌へ】、【食堂での食品ロスの削減。】などに取り組んでいる。</p> <p>(各事業所内食堂では、毎日、入館者数を食堂へ通知して昼食の調理数を調整することにより、昼食の売り残り数量を減らし食品残さの発生を制御している。)</p> <p>また、2020年8月、毎日生サンプルを展示していた食堂にサイネージを導入。月間平均44kgの食品残さを削減。(効果金額:25,344円/年)年間廃棄量と比較すると僅かな量だが、毎日確実に発生していた食品残さを削減。</p>
ペーパー紙削減への取組み	<p>横浜市内の各事業所においては、プリンターの印刷枚数を各部門にて管理抑制しておりコピー用紙削減に取り組んでいる。また、会議室には、プロジェクター又はLCDモニターを設置して、紙資料の削減を進めている。</p>
備蓄品の廃棄への取組み	<p>2020年6月、期限の迫った災害用非常食を、「公益社団法人フードバンクかながわ」に寄贈。従来は従業員に配布していたが、今年はコロナ禍の現状を踏まえ、配布は中止。(寄贈重量:591kg。期限が2か月以内となり、寄贈出来なかった物に関しては、全て分別し飼料化リサイクルを実施。</p>
廃棄物管理責任者講習会	<p>2017年7月26日、横浜市資源循環局様より「新任廃棄物管理責任者講習会」の講師の依頼を受け実施。弊社の廃棄物に関する取組みや、問題点等を紹介させて頂き 横浜市内企業の廃棄物に対する意識の向上に貢献。</p>

6 今後の取組・活動方針

※次年度以降の目標や継続のための取組・活動方針も含めて具体的に記入してください。

※現在活動休止中の場合でも、今後の活動の見込みや方針について御記入ください。

当社グループとしては、環境ビジョンの基に中期計画である「エコ推進計画2020」を策定して、環境保全に纏わる具体的な活動を推進している。今後の活動としては、引き続きこれに沿った活動を継続すると共に、現在の社会的な要請や企業環境を踏まえて、新たな中期計画策定を計画している。

7 審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、第28回は、審査会場でのプレゼンテーション（自己アピール）を実施しません。審査の参考とするため、最も注目してもらいたい取組・PRポイントについて具体的に記入してください。

【例】

- 最も注目してもらい・評価してもらいたい取組
- 一番成果があがっていると思う取組
- 他の企業と異なる強み・独自性
- 取組の過程で、どのような努力・苦労があったか など

当社では、市内小中学校への環境教育や横浜市主催の文化・芸術・スポーツイベントへの協賛・協力、神奈川区臨海部の防災の取組など、横浜市と個別分野における協力をを行い市民サービスの向上を目的として『地域活性化に関する包括連携協定』を締結している。

昨年から今年の具体的な取り組みの一部として、

2019年 横浜市環境創造局主催の横浜市環境教育出前講座を3回実施（※詳細資料参照）

2019年7月開催の「第18回ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド」に協賛。

2019年11月「よこはま森の楽校（がっこう）」で、環境出前授業を実施。（※添付資料参照）

2020年1月に横浜市立神奈川中学校に対する職業体験学習を実施。（※添付資料参照）

2020年7月開催された現代アートの国際展「ヨコハマトリエンナーレ2020」に協賛。

また、本社・横浜事業所内に「共存の森」と位置付けたビオトープ（緑地と止水池）を設置し、お客さまや従業員の憩いの場として活用。横浜市環境創造局が進める「京浜の森づくり事業」の一環として活動する「トンボはどこまで飛ぶかフォーラム」の主旨に賛同し、ビオトープを「トンボ池」として整備し、京浜臨海地区の企業の一員として、地域社会と共に持続的な環境保全活動に取り組んでいる。（※添付資料参照）

横浜市内にある本社・横浜事業所、白山事業所には、集積場の分別の徹底を目的として幾つもの分別Boxを設置し種類毎の分別を実施している。（※添付資料参照）

気候変動への対応

指標と目標

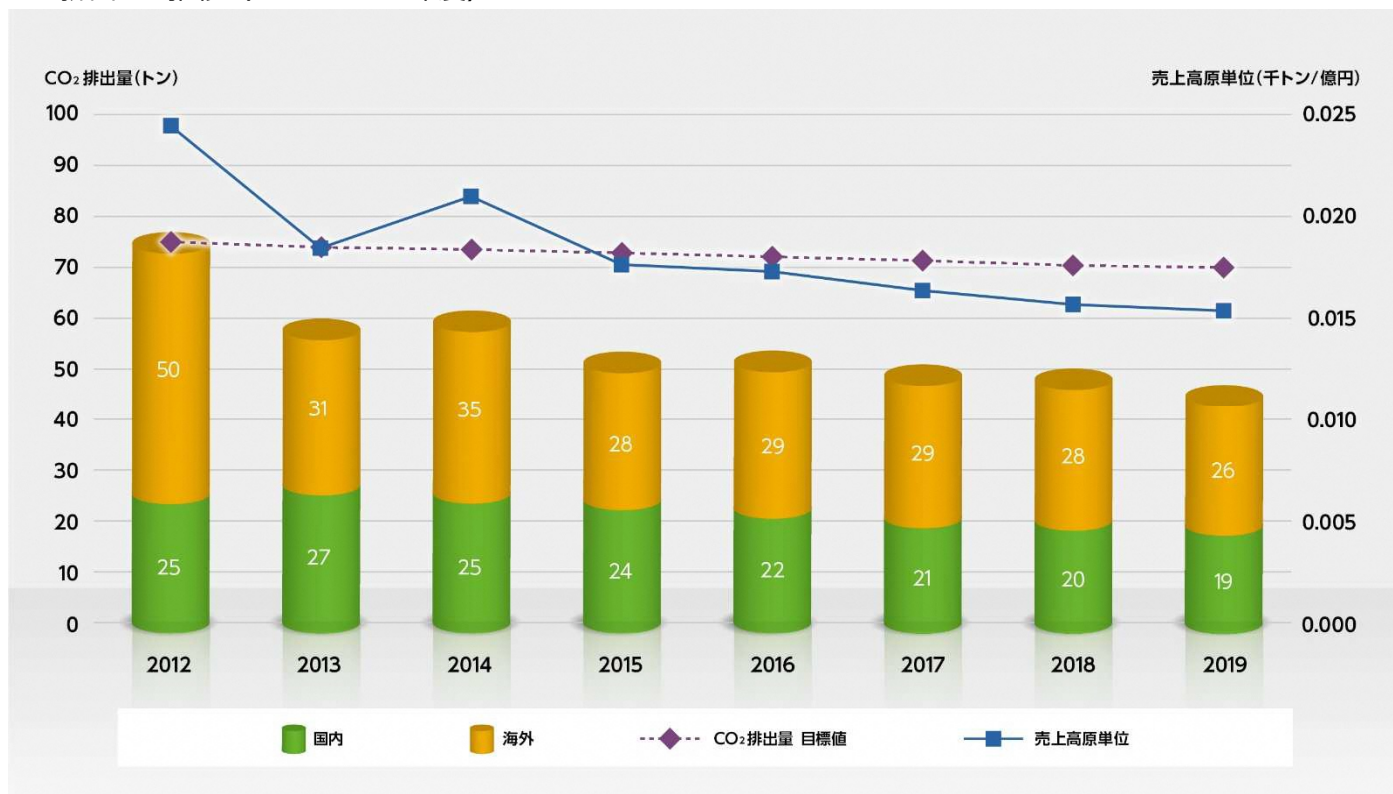
CO₂排出量の推移（Scope 1 および Scope 2）

JVC ケンウッドグループ全体における CO₂総排出量（Scope 1 および 2）は、直近 6 か年において、おおそ減少傾向にあります。2019 年度は目標値である 69,750t を下回る 44,742t に排出量を抑えています。

中期目標

温室効果ガス排出量：2020 年度までに 2012 年度比 年 1%ずつ削減。

CO₂排出量の推移（2012-2019 年度）



生産工程における省エネルギーの取り組み

エネルギー使用の削減推移

JVC ケンウッドグループは、モノづくりの企業として、限りある資源やエネルギーの使用量をできる限り削減し、持続可能な生産を実現することが重要であると認識しています。そのため、特に生産拠点におけるエネルギー使用量の把握および削減に取り組んでおり、工数削減や省エネ機器導入といった取り組みをグローバルで実施しています。なお、2019 年度の JVC ケンウッドグループ（国内および一部の海外グループ会社）におけるエネルギー使用量は 726.1 千 GJ でした。今後も中長期目標の達成に向けて、再生可能エネルギーによる代替も含め、積極的な取り組みを進めていきます。

エネルギー使用量の推移（2014-2019 年度）

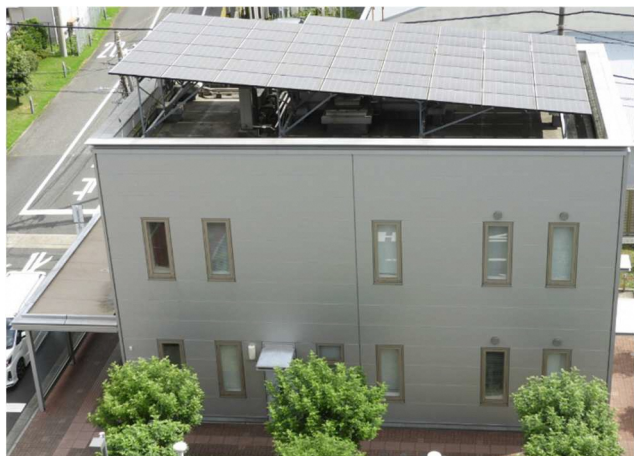


対象範囲：国内および一部の海外グループ会社

再生可能エネルギーの活用

本社・横浜事業所では、気候変動対策の一環として再生可能エネルギーの活用に取り組んでおり、敷地内 2 か所で年間 12 千 kWh の再生可能エネルギーを生産しています。守衛所の屋根に設置したソーラーパネルは、守衛所に電力を供給しており、また、入り口付近に設置した風力／ソーラーパネル（ハイブリッド発電設備）で発電された電力は、本社敷地内の外灯に活用されています。

守衛所に設置されているソーラーパネル



入り口付近に設置されている風力／ソーラーパネル（ハイブリッド発電設備）



国内事業所および営業拠点におけるライトダウンの実施

JVC ケンウッドグループでは、毎年 7 月 7 日の「クールアース・デー」に合わせて 18 時から 22 時の時間帯で国内事業所および営業拠点のライトダウンを実施しています。

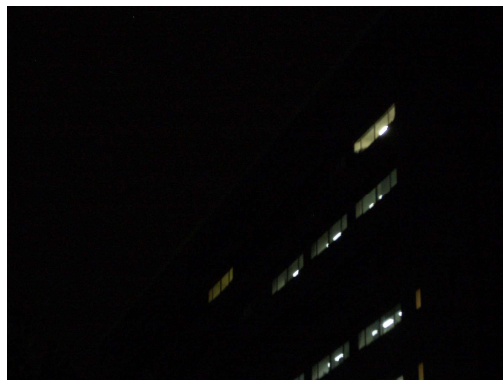
2019 年も 7 月 5 日に 8 事業所（本社、八王子、白山、久里浜、横須賀、長野、山形、長岡）、7 営業拠点（札幌、仙台、さいたま、名古屋、大阪、広島、福岡）で実施しました（2020 年は新型コロナウイルス感染症対策に伴いグループ全体での実施を見送りました）。当日は、看板や広告等の屋外照明ならびに一部部署における執務エリアの消灯を行い、企業として環境に配慮した経営を行う姿勢を示すとともに、CO₂排出量の削減に貢献しました。

本社・横浜事業所

消灯前



消灯後



輸送に伴う省エネルギーの取り組み（本社・横浜事業所）

本社・横浜事業所では、廃プラスチックを廃棄する際に廃プラスチック圧縮機を活用して容量を 1/5（80%圧縮）に減らし排出回数低減を行っています。これにより、廃棄物の輸送に係る輸送用燃料の使用を低減できるとともに廃棄費用削減にもつながっています。

廃プラスチック圧縮機



COOL CHOICE への賛同

パリ協定を踏まえ、日本政府は、2030 年度に温室効果ガスの排出を 2013 年度比で 26%削減する目標を掲げています。この目標達成のためには、環境省によると業務部門およびその他部門において、2013 年度比約 4 割という大幅削減が必要であると試算されており、日本政府は、脱炭素社会づくりに貢献する「製品への買換え」、「サービスの利用」、「ライフスタイルの選択」など地球温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を促す国民運動「COOL CHOICE」を推進しています。JVC ケンウッドは、SDGs ゴール 13「気候変動に具体的な対策を」に貢献する取り組みの一環として、「COOL CHOICE」への賛同を表明しています。



未来の
ために、
いま選ぼう。

< 「COOL CHOICE」ロゴマーク >

廃棄物の削減

廃棄物に関する取り組み

JVC ケンウッドグループは、事業活動を通じて発生する廃棄物をこまめに分別・分解し、社内での再利用や有価物化等に積極的に取り組んでいます。その結果、国内においては再資源化率 99.7%を達成しており、廃棄物総量も国内外で減少傾向にあります。今後はグローバルも含めたゼロエミッションに向けて取り組み、廃棄物総量の削減および再資源化を一層推進していきます。

中長期目標

廃棄物総量：2020 年度までに 2012 年度比 年 1%ずつ削減。

廃棄物総量と再資源化率の推移（2012-2019 年度）



対象範囲：国内および一部の海外グループ会社

※ 2012 年度は旧ケンウッドにおける海外 4 拠点のデータを含まず、JVC ケンウッドに社名変更した後の通期初年度（2012 年度）の実績を基準値としている。

廃棄物の再資源化（白山事業所）

白山事業所では、地域の自治体指導のもと廃棄物の減量化・資源化を推進しています。再資源化可能なものは処分委託先協力のもと、全てリサイクル処理を行っています。事業所内で不要となった排出物は 16 種類の回収箱にて回収を行い、事業所の排出物分別ルールに従いさらに 35 種類に再分別して処分委託先に引き渡しています。2019 年度実績では、事業所で回収した約 94%が再資源として活用されています。

廃棄物回収箱(各フロア)



廃棄物回収カゴ(有価物等)



食品廃棄物削減への取り組み（JVC ケンウッド・本社・横浜事業所）

本社・横浜事業所では、2019年度の横浜市「食の3Rきら星活動賞」の表彰に選ばれています。この賞は、食品廃棄物の発生抑制、再生利用等、他の模範となる取り組みを行い顕著な功績を挙げている事業者に贈られるもので、横浜市内から年間で3事業者しか選ばれない大変名誉な賞です。

本社・横浜事業所では、廃棄物として年間にコーヒーかすが1t以上、食堂からの食品残さが10t以上発生します。この廃棄物に対して【コーヒーかすを100%堆肥化へ】、【食品残渣を93.5%豚の餌へ】、

【食堂からの食品ロスを減らす為に作りすぎを削減。また、調理残渣の削減】などの取り組みが評価されました。

横浜市「食の3Rきら星活動賞」



OA用紙の使用量削減への取り組み

JVCケンウッドグループでは、環境に配慮した企業経営への取り組みとして、各会議室へ大型モニターやプロジェクターを設置し、会議の質的向上とともに会議資料等の紙の使用量削減による資源保護や廃棄物の削減を目指しています。役員会議においても、タブレット端末やIT環境設備の導入を進め、経営層が率先してペーパーレス化での会議運営を実施し、会議資料の削減に努めています。今後も、会議体質の改革により生産性を高めるとともに、環境負荷低減の取り組みを推進してまいります。

ペーパーレス化された役員会議運営の様子



白山事業所の会議室



生物多様性の保全

JVC ケンウッドグループは、環境基本方針に基づき策定された「エコ推進計画 2020」のもと、事業活動が与える生物多様性への影響を最小限に留め、保全に取り組むことの重要性を認識し、行政や専門家、地域の方たちと連携しながら、国内外の事業所の近隣地域における保全活動に取り組んでいます。2019 年度は国内で 3 つ、国外で 6 つの活動に取り組み、今後も事業地域の状況に沿った活動を継続していきます。

生物保全活動

トンボ池（ビオトープ）による生態系の創出

JVC ケンウッドは、2006 年より本社・横浜事業所内に「共存の森」と位置付けたビオトープ（緑地と止水池）を設置し、お客さまや従業員の憩いの場として活用しています。その後、横浜市環境創造局が進める「京浜の森づくり事業」の一環として活動する「トンボはどこまで飛ぶかフォーラム」の主旨に賛同し、ビオトープを「トンボ池」として整備し、京浜臨海地区の企業の一員として、地域社会と共に持続的な環境保全活動に取り組んでいます。

2019 年度も引き続き池の整備やトンボ調査を行い、3 日間で延べ 9 人の従業員が参加しました。事業所の生態系調査を毎年実施しており、これまでの調査でトンボ以外にもコオイムシやタヌキモなど累計 15 種の生きものや植物等が確認されています。今後も生物多様性を保全するためのモニタリング調査や従業員の環境への意識を高める活動を継続して行っています。



寄付・社会貢献活動

基本的な考え方と取り組み

JVC ケンウッドグループは、当社の製品・サービスや知見を生かし、企業市民として若い世代やコミュニティに貢献する活動をグローバルで展開しており、従業員の社会貢献活動への参加を奨励しています。また、コミュニティ投資の一環として、学生を対象とし多様な発想を生み出すことをねらいとするグローバルインターンシップの実施や、事故防止を目的として北海道の除雪車にドライブレコーダーを導入することなどにも取り組んでいます。これらの活動を通じてさまざまな価値・発想を受け入れた多様な働き方の実現、当社製品を活用したコミュニティへの貢献等を目指しています。

自社製品を通じた取り組み

当社の製品を通じて聴覚過敏で困難を抱える方のサポートや除雪車へのドライブレコーダーの導入等に取り組んでいます。



次世代のための取り組み

① 就業・技術体験、出前授業

横浜市中学職業体験学習

職業体験学習は、子どもたちが実際に職業を体験することで働くことの目的を理解し、将来の仕事への意欲を高める貴重な機会になります。

JVC ケンウッドは、横浜市と2014年8月に締結した「地域活性化に関する包括連携協定」のもと、2019年度は1月に横浜市立神奈川中学校に対する職業体験学習を実施しました。参加者からは、実際に仕事をしている人と接することで自身の将来を考えるきっかけになったと好評を得ています。また本活動は、SDGs ゴール4「質の高い教育をみんなに」の達成に貢献するものでもあります。



② 横浜市環境教育出前講座（生物多様性で YES！）

横浜市環境創造局主催の横浜市環境教育出前講座「オノマトペ（擬音語）で森の音を表現しよう」～多様な生き物がかわりあって生きている森の音を聴き、オノマトペで森を描こう～を実施しています。

オノマトペとは、（自然界の音・声、物事の状態や動きなどを音（おん）で表した語）について、その利点や特徴、各人の感覚の共有と違いについて学びます。弊社製品の木製スピーカーを使用して森の音（鳥の声、川のせせらぎ、木々の葉音）を聞き、聞こえた音をオノマトペで表現します。森には様々な音があり、音の数よりも多くの生物がいることを知り、多くの生き物が関わりあって生きていくゆりかごである森の大切さを知ります。



③ 当社製アマチュア無線機を利用した宇宙飛行士と子どもたちとの交流

JVC ケンウッドは、子どもたちが宇宙開発の最先端に触れることが、知的好奇心を刺激し先端技術を次世代に継承するきっかけの一つになると考えております。

JVC ケンウッドのアマチュア無線機「TM-D710GA」をベースに、宇宙ステーションでの運用に特化するよう開発した特別仕様モデルが、国際宇宙ステーション（ISS）に搭載されることになりました。本無線機は静止画像の送受信、パケット通信などさまざまなシーンでの運用のみならず、世界中の子どもたちが宇宙との交信を体験する ARISS のプログラム「スクールコンタクト」で活用される予定です。同無線機は、2020年3月に国際宇宙ステーションに搬送され、2020年中に欧州実験棟 Columbus に設置され、運用が開始される予定です。将来、一人でも多くの子どもたちが、科学や宇宙に興味を持ってもらえるよう、今後も無線機の開発を積極的に進めていきます。



神奈川県の一員としての取り組み

かながわ SDGs パートナー（SDGs を推進して事業を展開している企業を神奈川県がパートナーとして登録する制度）に登録していただき、その制度の下で実施されたミーティングに参加することで、自社の SDGs への取り組みを発信するとともに他のパートナーとの交流機会を持つことで、神奈川県の SDGs 推進に貢献しています。



自然環境のための取り組み

従業員の環境意識向上や各地域における美化活動、環境価値を創造する製品開発等、さまざまなアプローチで自然環境を守る取り組みを実施しています。

* 画像：白山事業所 六社会 合同清掃ボランティア

